

**PRIMERGY CX400 M1 / CX2550 M1 / CX2570 M1****ご使用上の留意・注意事項**

PRIMERGY CX400 M1 / CX2550 M1 / CX2570 M1 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2021 年 5 月  
富士通株式会社

**(1) UEFI モードについての留意**

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況に関しては、下記リンクをご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

**(2) USB 設定について**

Red Hat Enterprise Linux をご使用の場合、USB を USB2.0 で使用する必要があります。

BIOS 設定の「Advanced」-「USB Configuration」-「xHCI Mode」を"Disabled"に設定してください。USB3.0 で使用した場合、オペレーティングシステムが停止する場合があります。

**(3) Red Hat Enterprise Linux7 ご使用時の設定**

Red Hat Enterprise Linux 7 をご使用の場合、カーネルパラメータへ

「intel\_idle.max\_cstate=0 processor.max\_cstate=0」を追加してください。追加せずに使用した場合、稀に予期せぬリブート等の現象が発生する場合があります。

**(4) メモリスペアモード、メモリミラーモードについて**

メモリスペアモード、メモリミラーモードはサポートしていません。BIOS 設定の「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Mode」の"Mirroring"および"Sparing"への変更を禁止します。

**(5) ご利用の室温環境について**

Xeon プロセッサー E5-2637v3 / E5-2643v3 / E5-2667v3 / E5-2690v3 / E5-2697v3 / E5-2698v3 / E5-2699v3 搭載時は吸気温度 30 度以下でご使用ください。

**(6) サーバノードのオプション増設作業や保守作業について**

サーバノードのオプション増設作業や保守作業において、サーバノードをシャーシより取り外した場合、シャーシに搭載されている一部のサーバノードの冷却が不十分となるため、そのサーバノードにおいて一時的にスロットリング機能が有効となり、性能を低下させて動作します。但し、オプション増設作業や保守作業が終了し、シャーシ内にサーバノードを搭載した状態に戻すことにより、通常の状態に復旧します。サーバノードベイを開いた状態での増設作業や保守作業は 60 分以内に実施してください。

## (7) システム ID カードについて

PRIMERGY CX400 M1 前面にあるシステム ID カードを引き出す際は、ゆっくりと引出してください。強く力を掛けるとロック機構が働かず抜けてしまう場合があります。もし抜けてしまった場合は、再度差し直すと元の状態に戻ります。またシステム ID カードが抜けた場合でも装置動作には影響はありません。

## (8) GPU コンピューティングカード(NVIDIA Tesla K80)について

PRIMERGY CX2570 M1 のオプション品である GPU コンピューティングカード(NVIDIA Tesla K80)は、本体 BIOS 1.18.0 以降でサポートしております。

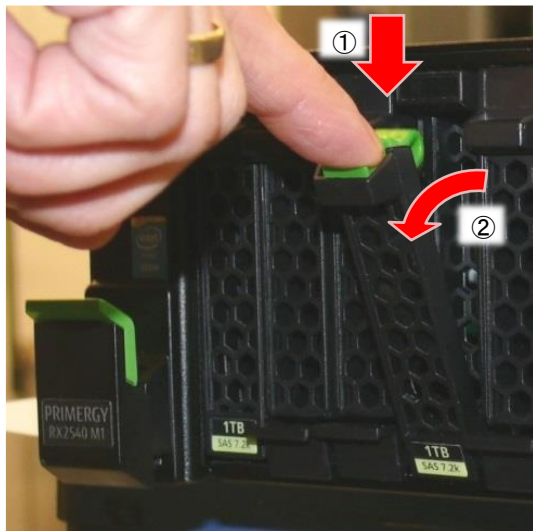
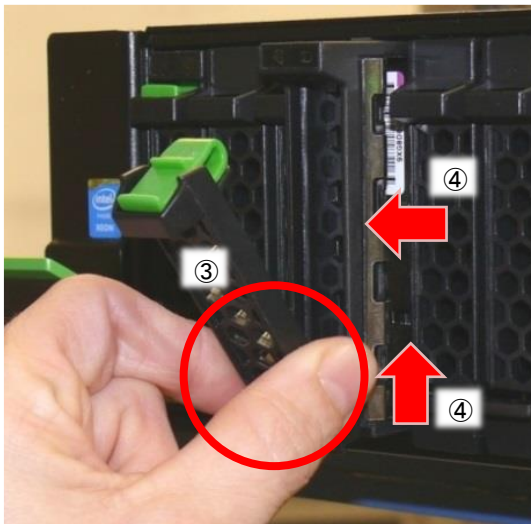
## (9) 2.5 インチ PCIe SSD (PY-BS08PA / PYBBS08PA / PY-BS16PA / PYBBS16PA / PY-BS20PA / PYBBS20PA)について

- ① 本体 BIOS 1.18.0、iRMC 7.73 以降でサポートしております。
- ② PRIMERGY CX400 M1 アップグレード&メンテナンスマニュアル 7.4 項にてホットプラグは記載制限事項を満たす場合のみ可能とされていましたが、上記製品は本体 BIOS 1.23.0 以降でホットプラグをサポートしております。ホットプラグの詳しい手順は下記リンクより対応製品の製品情報をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/archive/peripheral/disk.html>

## (10) 2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意について

2.5 インチ HDD / SSD を取り外す際に、HDD/SSD トレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。2.5 インチ HDD / SSD が取り外しにくい場合は、下記の手順を参考にしてください。

	
<p>①タッチポイントを押して、ロックを解除します。 ②手前にリリースレバーを約 45° 手前に倒します。</p>	<p>③リリースレバーの根元をつまみます。 ④トレイを軽く持ち上げて、サーバから引き抜きます。</p>

※ トレイを持ち上げても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。(HDD/SSD を元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSD を引き抜いてください。)

## (11) 冷却ファン/電源ユニット/環境温度の異常通知について

冷却ファン、電源ユニット、環境温度に異常が発生した場合、搭載されているすべてのサーバボードで異常を通知します。

## (12)省電力動作モードを使用時の注意事項について

省電力動作モードを有効にしてご使用の場合、稀に、CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。

(ただし、ハードウェア故障や BIOS 版数が低い場合を除きます)

BIOS 設定の[Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology]を“Custom” (初期設定値: Energy Efficient)にし、下記のように設定してご使用ください。

- ・Enhanced Speedstep: “Disabled” (初期設定値: Enabled)
- ・TurboMode : “Disabled” (初期設定値: Enabled) \*
- ・CPU C1E Support : “Disabled” (初期設定値: Enabled)
- ・CPU C3 Report : “Disabled” (初期設定値: Disabled)
- ・CPU C6 Report : “Disabled” (初期設定値: Enabled)
- ・Package C State limit : “C0” (初期設定値: C6)

※Enhanced Speedstep が“Disabled”のままだと TurboMode の設定が有効にならず、変更ができないため、以下の手順で変更してください。

- ・いったん、Enhanced Speedstep を“Enabled”に変更する(既に Enabled の場合は不要)
- ・TurboMode を“Disabled”に変更する
- ・Enhanced Speedstep を“Disabled”に変更する

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 の場合:

/boot/grub/grub.conf の kernel 行に

“intel\_idle.max\_cstate=0 processor.max\_cstate=0”を追記してください。

Red Hat Enterprise Linux 7 および SUSE Linux Enterprise Server 12 の場合:

/etc/default/grub の GRUB\_CMDLINE\_LINUX 行に

“intel\_idle.max\_cstate=0 processor.max\_cstate=0”を追記してください。

追記後 grub2-mkconfig コマンドで反映まで実施してください。

## (13)VMware ESXi を使用時の注意事項について

一部ネットワークカード (PY-LA262 / PYBLA262L / PY-LA264 / PYBLA264L)の省電力モード動作時において、Energy Efficient Ethernet 機能を保有した上記型名の LAN カードにてドライバが当該機能を有効としていた場合、稀に CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生する場合があります。LAN ドライバの設定にて、Energy Efficient Ethernet 機能を無効化してください。

- ・ ESXi 5.0 / 5.1 / 5.5 / 6.0U2 以前の場合

- 1) 以下のコマンドを実行します。

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p “<igb ポートに対する設定値>”  
[igb ポートに対する設定値]
```

0 : EEE 無効

1 : EEE 有効

<実行例>

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p “EEE=0,0,0,0”
```

コンマ(,)で区切ったリストは、「PCI バス番号」の小さいポートから順番に、省電

カイサネット機能を無効化するポート毎に指定します。今回の例は、PY-LA264(4ポート)が1枚搭載されており、igb ポートが4つあることを前提にしているため、0(無効)を4つ指定しています。なお、「PCI バス番号」とは、「esxcfg -nics -l」の出力結果が以下の時、PCI 列直下の値(例：vmnic1 の場合:0000:03:00.00)です。

・ コマンド esxcfg -nics -l 表示例

Name	PCI	Driver	----
vmnic1	0000:03:00.00	igb	----
vmnic2	0000:03:00.01	igb	----
vmnic3	0000:03:00.02	igb	----
vmnic4	0000:03:00.03	igb	----

今回の例では vmnic1 の PCI バス番号が一番若いため、最初の 0 が vmnic1 に対する設定であり、2 番目に若い vmnic2 に対する設定が 2 番目の 0 となります。  
※ESXi シェルの有効化手順および SSH 接続の許可手順は下記ヴイエムウェア社 Knowledge Base を参照してください。  
<https://kb.vmware.com/kb/2004746>

2) 上記設定後、システムを再起動してください。

#### (14)iRMC webUI を利用した設定変更時の注意について

iRMC FW 9.62F をご利用の場合、設定変更時に選択する「Apply」ボタンが反応しない場合があります。その場合、設定変更が反映されるまで「Apply」ボタンの選択を行ってください。なお、利用ブラウザが firefox の場合、上記事象発生しないことを確認済です。

### 修正・対策済となった項目

#### 【修正済み】iRMC S4 Web インターフェースご使用上の制限事項

##### ① SNMP コミュニティ名設定時の制限事項

「ネットワーク設定」-「SNMP」から、SNMP のコミュニティ名を設定する際、記号はご使用になれません。コミュニティ名設定時は、英数字のみをご使用ください。

##### ② ネットワーク一覧の情報表示に関する制限事項

「システム情報」-「ネットワーク一覧」に、搭載されている NIC 情報が表示されない場合があります。なお、表示上の問題のみの為、システム稼働には影響ありません。

NIC 情報は、ServerView Operations Manager(「ネットワークインターフェース」メニュー)よりご確認ください。

##### ③ LDAP 構成設定に関する制限事項

「ユーザー管理」-「LDAP 構成設定」について、LDAP によるユーザー管理機能は使用できません。

⇒ iRMC FW 7.69F で修正しました。

#### 【修正済み】「パワーサイクル(電源 off-on)」機能に関する制限留意事項

「パワーサイクル(電源 off-on)」機能は使用できません。

#### 使用例① IPMI コマンドによる方法

(例) >ipmi.sh -ip xxx.xxx.xxx.xxx -u root -p password power cycle

#### 使用例② iRMC S4 Web インターフェースによる方法

- (A) 「コンソールリダイレクション」-「ビデオリダイレクション」-「電源」メニューの「電源 off-on」
- (B) 「電源制御」-「Power On/Off」-「電源制御」メニューの「パワーサイクル」

本来は電源切断及びその後の電源投入を自動で実行する機能ですが、本機能を実行すると電源切断後、稀に電源投入できなくなる場合があります。(本現象が発生した場合は、システムイベントログに soft power control failure が記録されます。また一旦 AC 電源を切断することにより復旧します)

パワーサイクル(電源 off-on)を実施する場合は、「電源切断」機能および「電源投入」機能をそれぞれ使用してください。

⇒ iRMC FW 7.71F で修正しました。

#### 【修正済み】 Red Hat Enterprise Linux6 ご使用時の設定

Red Hat Enterprise Linux 6 において装置 BIOS 版数 1.8.0 でご使用の場合、カーネルパラメータへ「pci=nocrs」を追加してください。追加せずに使用した場合、CPU 性能が低下する場合があります。

⇒ BIOS1.18.0 で修正しました。

#### 【修正済み】 ラック搭載時の注意

本装置をラックに搭載する場合、PRIMERGY CX400 M1 の直下(複数台搭載時は最下段に搭載している PRIMERGY CX400 M1 の直下)には他の装置を搭載せずに、1U 分の空きスペースを確保してください。PRIMERGY CX400 M1 以外の装置を 1U 分の空きスペースを確保せずに設置した場合、PRIMERGY CX400 M1 と干渉して装置にダメージを与える可能性があります。

⇒ 2015 年 4 月以降出荷装置は対象外。

#### 【修正済み】 ServerView Operations Manager、ServerView Agents インストールについて

本装置で 64bit Linux OS を使用している環境に ServerView Operations Manager V7.00/V7.01 (SVOM)、ServerView Agents V7.00/V7.01 (SVA) をインストールする場合、以下の点にご注意ください。

64bit Linux OS 上では SVOM または SVA のどちらかしかインストールすることができません。インストールを行なおうとすると以下のようになります。

- － SVOM がインストールされている環境では SVA はインストールできません。
- － SVA がインストールされている環境では SVOM がインストールできません。

そのため、SVA をインストールして本装置の監視を行う場合、SVOM は別の装置上にインストールしてご利用ください。

⇒ SVOM V7.02 で対応しました。

SVA をインストールして本装置の監視を行う場合、SVOM は V7.02 以降をご利用ください。

※SVOM V7.02 以降と SVA V7.00/V7.01 を組合せて使用する場合、先に SVOM がインストールされていると SVA のインストールが行えません。SVA をインストール後、SVOM V7.02 以降をインストールしてください。

#### 【修正済み】 BIOS セットアップユーティリティについて

BIOS 設定の下記項目について設定はご使用できません。設定を変更しないでください。

「Advanced」-「Network Stack configuration」-「Network Stack」

(※設定を変更した場合でも装置動作に悪影響を与えることはありませんが、システムボードの保守交換が発生した場合、装置引き渡し時に設定項目の復元は行われません)

⇒ BIOS1.23.0 で修正しました。

#### 【修正済み】 iRMC S4 Web インターフェースのビデオリダイレクション(AVR)について

iRMC S4 Web インターフェースのビデオリダイレクション(AVR)機能を Shared LAN 構成でご使用の場合、稀にビデオリダイレクション画面がクローズされる場合があります。本現象が発生した場合は、再度ビデオリダイレクションを起動してください。

⇒ iRMC8.11F で修正しました。

－以上－